

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1-1	運営方針に基づく実践を行う上で、施設の理念が確立されていることが望ましく、現在の実践を深めるためにも希の丘の「あるべき姿」を理念として掲げ、共有する必要がある。	運営方針と地域密着型サービスの目的をもとに、希の丘の「あるべき姿」を理念として掲げ、利用者や職員全体で共有できる。	・理念を策定し、周知する ・理念に沿った運営方針のもと、実践が行えるように事業計画を作成する	6ヶ月
2	26-13	介護計画の確認やモニタリングが十分ではない。モニタリングの様式が定まっておらず、ケアマネジメントの流れが滞っている。	モニタリング用紙を作成し、ケアマネジメントの一連の流れが整い、ケアマネジメントが計画的に実施される体制が構築できる。	・モニタリング用紙の作成 ・計画的にケアカンファレンスを開催し、それに合わせてモニタリングを実施することができる	6ヶ月
3	49-22	近隣の散歩や、近くの商業施設での買い物は現在でも行っているが、家族のアンケート結果では外出しているという認識や満足度が低いことが分かった。非日常的な感覚があり、外出できたという気分転換が味わえるような外出を企画実行する必要がある。	入居者の要望に合わせて、行きたい場所に行くことができ、日常から離れ気分転換できる外出を企画実行できる。外出することで日常生活も活性化し、より生活が充実する。	・計画的に外出支援を行えるよう、会議で検討し計画を作成する ・入居者の希望する外出が行えるよう、居室担当職員が希望を確認する	12ヶ月
4	33-16	現在までに2名の方の終末期ケアの実践があるが、より一層ケア内容が向上することをめざし、終末期ケア後の振り返りや、グリーフケアも行える必要がある。	終末期ケアの実践を深めるため、対象者が亡くなられた後は振り返りのケアカンファレンスを行い、遺族の方の心理的サポートを行うことができる。	・対象者が亡くなられた後の振り返りのためのケアカンファレンスを行う ・対象者が亡くなられた後も、ご家族の方へグリーフケアを行い、継続的な関わりを持てるようにする	12ヶ月
5	2-2	近隣の環境が新興住宅地ということもあり、現状では地域住民との交流の機会が少なく、開かれた施設としての認識が低い。地域の方との交流を目的とした取り組みが必要である。	施設行事の開放や認知症カフェ、こども110番運動への参加にとりくみ、開かれた施設として地域住民との交流をもつことができる。	・夏祭りなどの施設行事を地域住民が参加できるようにする ・認知症カフェの開設 ・こども110番運動への参加を行う	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。